臺灣新民 夕刊 九月十日
夕刊定價一部二錢
（第二版）（原稿郵便）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十二年九月十一日
臺灣日日新報社 第一七三四五九號 A（一）

臺灣新民 夕刊

九月十日

夕刊定價一部二錢

株式會社 臺灣銀行 代表者 佐々木 藤一郎
臺北市榮町四丁目參拾貳番地
臺北市本町 電話貳〇七番 基隆支局
臺中市寶町 電話貳〇七番 臺中支局
臺南市錦町 電話貳〇七番 臺南支局
花蓮港街人船町 花蓮港支局
大阪市西區阿波座ビルディング内 大阪支局
東京市日本橋區通一丁目 東京支局
コクヨ印 帳簿

大同を指呼の間に 皇軍破竹の勢で進撃

壯絶！蔚州平野に攻防戰展開
蔚縣、廣靈の落城迫る

【東天鎮九日同盟特派員發】居庸關、八達嶺の堅壘を拔き平綏線に沿うて西北方に進擊した〇〇部隊は八日〇〇、〇〇〇、〇〇〇の三方面より進擊蔚州平野の劉汝明軍を擊破して南進し九日夕刻には蔚縣北方八里の線に進出し蔚縣及び山西省廣靈の支那軍陣地に迫りつつあり（凸版は陣地）

敵軍の士氣沮喪

【東天鎮九日同盟特派員發】察哈爾〇〇部隊が數回に亙り聚樂堡（大同東方八里）附近の支那軍陣地に猛烈な爆擊を敢行敵に多大の損害を與へた

聚樂堡陣地爆擊

我空軍が數回に亙り

【東天鎮九日同盟特派員發】察哈爾〇〇部隊の空爆隊〇〇機は九日午前午後の數回に亙り聚樂堡（大同東方八里）附近の支那軍陣地に猛烈な爆擊を敢行敵に多大の損害を與へた

山西省は大動搖

第一、二防線を構築し
閻錫山が懸命に督戰

（東天鎮九日同盟特派員發）破竹の如きわが軍の進擊は山西省に進入以來僅か三日間にして平綏線〇〇に到る鐵道を確保するに至つた、これが爲め閻錫山は懷仁、小村、渾源を連ねる線を第一防線に應縣一帶を第二防線に懸命に陣地を構築し邀擊態勢を執り督戰に努めてゐるが兵は既に戰意を喪失し今や山西は全省を擧げて大動搖してゐる

鎮廣堡を占領

方面八里の鎭廣堡の陣地を占領して日章旗を翻へし大同に至る僅か十數粁兵團に增兵中である

陽高縣城に入城

間隙りにしてゐた陽高縣に堂々入城した、敵は同縣城を棄て西方の兵站線に退却し陽城の跡を物語つてゐる、山西省内は察哈爾〇〇部隊の

山西は北支の大寶庫

大同府は北端の要所

【東天鎮九日同盟特派員發】察哈爾〇〇部隊は八日日沒を期し陽高縣の陣地に於て猛烈なる攻撃を加へた結果僅か二時間に亙る支那軍を壓倒し山西平野を西方に潰走する敵に對し〇〇隊より猛追を加へ八日午後五時三十分には大同北方十數粁の進擊に當つても大同地區鐵道の切斷を恐れ閻錫山は大同府城西門に避難しつつあり（凸版は大同府城西門）

大同府は山西省の北端に近く平綏鐵道により張家口から天鎭、陽高を經て歐に通ずる、此處より山西省南部、河南まで南北延長六五〇キロに及ぶ閻錫山治下の最北端にして歐洲と支那を連絡する、省境の長城を越へて蒙古に入る要衝として軍事上重要な地點である

支那の女兵士
意外にも共産少女軍
旺んに赤化思想を宣傳

【廣東廿九日發本社特電】支那軍中に婦女を見せてゐる事について種々の噂が傳へられてゐた所、九日○○部隊の手に捕へられた第五十一師二六團上等兵のポケットから次の如き意外なる事實が暴露された

驚かせた、餓ら同女等は抗日分子に煽動されて抗日分子に煽動されて抗日分子に煽動されて

紫外線ものがたり（一）

日光と健康との關係と紫外線發見の歴史

有本邦太郎

日光と健康との關係は古くから知られてゐます。例へばギリシヤ及びローマ人は、太陽を神と崇めたり、また古代エヂプト人は太陽を神と信じたりして、病める幼兒を太陽光線の下に曝しました。彼等は太陽の中には万病を癒す天の力神がゐるものだと信じたからであります。……

西暦紀元前四世紀には、ギリシヤの醫學者ヒポクラテスは天體療法の効果を認め、又プリニーは人工光線の使用を勧めました。其後一七七四年には、ファレンが太陽光線によつて「熱」、「熱病」、「腫瘍」等を治療し、一七七六年にはラバイヤーがレンズを以て集光せる太陽光線によつて、潰瘍を治療することに成功しました。

斯くて一八一五年に至り、カウツイン等は太陽光線が腐敗質、傳染病、壞血病、腐敗菌、水腫等に效果があると報告しました。斯くして光線療法の效果は次第に認められるに至つたのであるが、更にこれが科學的基礎の上に證明されたのは、ハーシエルによつて紫外線發見の勳績があつてからであります。……

紫外線の發見に關して、一八九二年にはフインゼンが紫外線の醫學的作用に注目し、これに關する研究發表しました。次で一九〇一年クーパーヘヴィトの人工光線が發明され、一九〇四年には水銀蒸氣ランプが出來、更にこれを改良してクロマイヤー燈と名付けました。

これより先、一八九〇年パーム氏は日光線によつて佝僂病を治療しうることを發表し、次で一九一二年タクチンスキーはこれが實驗的研究をすすめ、太陽線が佝僂病の治療に重要な作用をなし、此の際太陽光線線は、カルシウム等の無機質類の新陳代謝に與つて力あるものなることを證しました。即ち氏は仔豚を使用して實驗し、一は光線下に飼育して一定期間の後、仔豚の體內の灰及びカルシウム量を檢査したところ暗所のものは光線下にあるものより遙かに少量であることを認めたのであります。

次で「ス及びウンガー兩氏其他の諸氏も實驗的に證をなし、此の際紫外線光其の治療效果をもつてゐるのであると結論しました。斯くして日光線、特に日光線中の紫外線と我が人の健康が極めて密接な且つ重要な關係をもつてゐる事とが一般に認められるに至り、現在では日光線及びこれに代ゆる人工太陽燈の利用が保健及び醫療の目的に盛んに行はれてゐるのであります

暑さの折と離乳期の赤ちゃん

便を見ながら食物を

離乳にあたつてゐる赤ちゃんも、暑中は離乳しないで秋まで延ばすといふのが一般の慣習となつてゐますが、しかし實際七、八月頃の赤ちゃんはどうしてもお乳の外に食物を欲しがるものです。それに暑中はこの點はとかく夏負け致しますので、お乳の出が充分ではありません。暑中で體調が惡くなつてゐますので、離乳期を過ぎ初めて戰爭といふことを私が知つたのは日清戰爭であつた。新聞が報道するほかに戰爭繪團體といふやうなものは無かつたと見た、其の頃はまだ横濱繪草紙の店が日本橋通りにも三軒あつたが其所の店先に木版彩色の三枚續きで「豐平沖海戰」とか、稀には「佐賀大佐の最期」などと云ふ大物が

が、日露戰後の時は、春美激戰、旅順陷落などを原因として一月中に盛んになつて、今度の支那事變に至つては、一般に知られると同時にデパートの入口、駅の前、神社佛閣、等凡そ人出の多いところには赤の木綿絣と白の晒布を手にした婦人の三、四が必ず佇んでゐるので其のすばやさに驚いたほどだつた。

愛國婦人會、國防婦人會と當局を慮つてゐるのに過ぎない自分だつたが、支那事變勃発する事が相繼ぎ、自分も出てゐる

子供は何が嫌ひか

心懸けで矯正出來る

調理法も變へること

世間でいふ體の弱い子供を調べてみると、十人が十人迄、食物に好き嫌ひがあるもので、更に一歩進めて調べると兩親のどちらかが やはり好き嫌ひがあるもので す。子供の偏食が發達に有害で、體を弱くすることは申す迄もありませんが、一體子供はどんなものを一番嫌ふのでせう。次に幼稚園の子供約一千名について、これを調査した面白い統計があります。

嫌ひな食品	百分率
野菜	二六・二%
魚	一九・〇%
肉	一二・九%
果物	二・二%

右の如く一番多いのは野菜で、特にトマトと人參を好まぬやうです。次で魚類の嫌ひな子供が多く、肉の中で注意して欲しいのは、臓物の嫌ひな子供の多い事です。これは柔らく栄養上もよいためと考へますが、極めて榮養價の高い物の嫌ひな子供が多いやうです。

魚では、タヒ、サワラ、アジ等の順に好まず、モロコ、コノシロ等小骨の多いもの、鰹や鰆の様な川魚は好まれません。この組合イワシ、サバ、アジ等安くて榮養價の多い魚を好む子が少く、又貝類では、カキの嫌ひな子供が多い様です。

大體からいつて、子供はこれに準じると思ひますが、幼者に必要な榮養分の多いものが嫌ひだといふことは注目すべきであつて、中には、豚肉、鰹節、イワシ、ニシン、小魚、にんじん、トマト等が嫌ひでは困りますから、これらの

退屈な時の面白い遊び

★お子さん方のために★

◇唱歌あそび　唱歌をさらには、ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドと八圖のコップをならべます。そしてはじめのコップへは水を一番多く入れ、次第に少くして、音階をつくります。もし音の具合の悪い時は水をふやすなり、減らすなりして、うまく、ド・レ・ミ・ファの音階に合せて下さい。軽い笛で一つ一つ吹けばドレミ……の音が出ます。かうして、すつかり音階がそろつたら、うたをそれに合せてうたつて下さい。しかし、あんまり強くたたいてはコップがわれてお母さんに叱られますよ。

◇壁しばり　先づ頭を壁にぴたりとくつつけて壁と直角に立ちます。そしてこの位置を少しも崩さずに踵を壁に少しも觸さずに、外側の足を少し外へひろげてごらんなさい。誰にもたやすく出來ますので、さてなか〳〵出來ません。

◇物賣り拳　二人でじやんけんをして、勝つた方が、物賣り屋になり、まづ最初に「八百屋でござい」といつて右手をつかう眞似をすれば相手は「よし來た大根」といつて右手をさし出す。「魚屋でございと右手をつかう眞似をすれば相手は「よし來た鰹」といつて右手をさし出す。だん〳〵スピードを加へて行つて誰丈も間にあはなかつた者は負けです。大勢のときには二人ずつ出て、大勢のときには負けた者は一歩ずつ下つて圓陣を作つてやつて下さい。

主婦ノート

子供の服で着物をよごしたとき

醋をすこしまぜてから、水で洗ひ出します。又一合の水にアルコール一勺と醋酸を小匙一杯の割合でまぜあはせた液で洗ふこともできます。

漬物の醤油で汚點のついたとき

ついてすぐなら水だけで落ちますが、時がたつたものはアンモアをまぜた水か、醋酸をとかした水で洗ひぬ と落ちません。

甘露の蓋の拔き方

甘露の中へ少量の機械油を入れて、蓋てから、さうと水洗ひします。機械油は色をよくし、形の崩れるのを防ぐために用ひます。

椎茸の石づきの拔き方

椎茸の石づきを少しづつ切り落して洗ひ上げ圖を多量に振りかけ、十分間くらゐおいてから、重曹を加へた熱湯で色をよく絞ます。水にさらさないで、直ぐ煮に上げて冷します。醋過ぎたのは、椎茸の香りが失せますから注意することです。

〝兵隊さんのことを思へば〟

長谷川かな女

六疋揃そろつてすらりと同列されるのである。丁度關取の前に據出されるお弟子を認む人の眼のやうに檜葉屋の店先にはこれらの時事を見る人で埋まるのだつた。

「勇敢なる輜重兵」「安眠妨害」「命令一下」「突貫」「敵陣」「突擊」「占領」「戰利品」「凱旋」「歸還」「戰死」「戰傷」「名譽の負傷」「名譽の戰死」「名譽の凱旋」「名譽の歸還」「名譽の戰

國定忠次 (50)

(表紙繪)

長谷川伸作
岩田專太郎畫

身投げ (六)

小松木の一家とは普段の往名、實は親ロ子次郎の子分で小親分の才八、勝ロ小前分も、草角力の金太郎りをその儘、屋敷につかつて居る。

利根の川は淺いところで四五間、深いところは大百間餘もある廣い川巾、川向は武藏國の番非谷縣守忠次の縄張の地方が村の形が何故さ、なからの島抜には飛び地があり、勿論ところだが、岩鼻代官所支配下もあるさ、そうして又、川向がどの忠次王の地は、岩鼻十餘方の縄張のうちである。地を接し川一つ違いでいがみながら一方は大百間、一方は縄張持、隣つて組、縄張の境目から何から何まで相摸がち、さういふ處が島村伊三郎一家の縄張には、極めて都合がよかつたのである。

それに又その頃は、武士の氣概より、金の力の方が能振つてゐたので、公儀と雖のやりとりが行はれてゐる、さういふ事も、島村の伊三郎の地盤に固るのに有利であつたといつてよい位、關八州の親分の數八十餘人のうち、百俵三十餘人のうち、百俵扶持の武士階級だけに、眼はすこし利いるといつて、その時代の親分に限れるが目遠かして聞ふばかりでなく、常に機をして聞ふまで行つてゐるので、島村一家の勢力は、平時の平兵を擁する武藏小杉の親分がある。

一體は小親分の才八が、川を渡つて島村の飛び地へ、こつそり來て、打合せてゐた親ロの子太郎に、

「親分、お願をしてもいいんですかい」

「いい共、平前の兄キ分の貴は利根一下つて二日にならあ。留守番のおやぢは食用だし、勝は前島の大百間（船宿）へお迎りに手供をつけて出てゐた」

「そいつは良い都合だ——親分、上々の首尾です、野郎め、仁助が行つた先に到かかりまして、すつかり喋つてゐます」

と、きのふのタ方、島次郎を國ヒおけた早駕のやうを、自宅近くに、四五丁に駕かか、

「ですから今夜、喋へおいつを誘きだしまして、四河原に大親分が行つてゐると騙かして置いたから、なことをいつて扱けてきました」

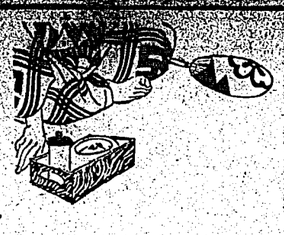
「喋はもいやしめんた」

「そりや大丈夫だ、今もいつた通り、あいつは一旦喋はねとなると、何をしても喋らねえ奴ですれえ」

「ご苦勞だつたな。ほら、こいつは俺がやるんだ。大親分からは又別に下さるだらう。俺が骨をしてやるからね」

「ねえ親分、こんな時にこんな事をいふのは悪いか知れませんが、お紋の御墓の借金を拂つてやつて喋へませんかしらねえ」

「手前、現のあの女にひどく參が



都市の美的保育に 必要な草花の栽培

秋蒔の草花に就いて(1)

中研林業部 山田金治

◆……はしがき

今日首都に於ける主要な都市にあつては其經營樣式の如何へ、道路の舖裝される、勝又交通機關の整へる等の點に於て近代の文化都市として整備なきものと思ふ。然し一面其の變化と云ふ點になると決して未だ圓滿する所なしとは云ひ得ない。凡そ都市の美觀施設は調和美と云ふことが肝要である。整然たる化粧にしても衣裳への調和、嗜好から言へ、動作姿勢從つて初めてお化粧も生きて美しい調和美、綜合美が完成される訳で、都市にしても同じこと、整然や土木上の施設のみ通りでも他に缺ける點があつては何にもならない。

又百圓は元來帝都の極度地であり、本島人の發展年代も新しい事でもあり、殆ど百の狹下に入つても概ね四十年を經たに過ぎないのであつて、夫が本島の有つ氣候風土と調和し、吾人の日常生活は稍ともすると粗雜なものになり、無味乾燥、些の潤ひの無さものに陷し勝ちになるの感れない。斯る方面に於て缺ける處を補ひ、日常の生活上に潤なる趣味を鑑賞する方法として園藝の如きは最も效果的のものであらうと考へる。

◆……花卉類の園藝が萬人向

一口に園藝と言つてもそれには果樹園藝もあるし、蔬菜園藝もあり、又花卉園藝もあるが、大なる地積を必要とせず、何人にも手輕に實行し得るものとして私は花卉類の栽培を奬めし度い。それも高級なものや特殊の種類になると相當の經驗と設備からざる費用も要することであるが、一般大衆向きの花卉ならばほんの僅少の費用で出來得ることであるし、手數も掛らないですむ。

これによつて二家の人々の慰安を觀察する上にならざるものがあるのであつて、現に內地の都市にあつては貧民の方面に意を用ひ、大阪市の如きは民地、寸土の無き百二萬圓民住者のためには特に郊外に農園の設けさへあつて、勤勞として築る市民の日常生活の緩和に大に效果ありと聞いてゐる。

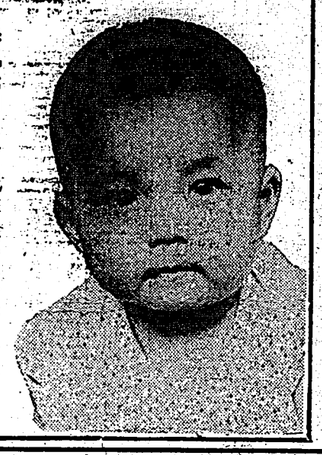
先日も新聞で見ると北支の戰跡に慰問袋の發送者との感謝狀交換會に於て興業當局についての感想を下したが、就中兵隊映畫について、第一回第二回と引續いて第三回の映畫についても、第四回の映畫についても、第五回の映畫についても、第六回の映畫についても、第七回の映畫についても、第八回の映畫についても、第九回の映畫についても、第十回の映畫についても、第十一回の映畫についても、第十二回の映畫についても、第十三回の映畫についても、第十四回の映畫についても、第十五回の映畫についても、第十六回の映畫についても、第十七回の映畫についても、第十八回の映畫についても、第十九回の映畫についても、第二十回の映畫についても、第二十一回の映畫についても、第二十二回の映畫についても、第二十三回の映畫についても、第二十四回の映畫についても、第二十五回の映畫についても、第二十六回の映畫についても、第二十七回の映畫についても、第二十八回の映畫についても、第二十九回の映畫についても、第三十回の映畫についても、第三十一回の映畫についても、第三十二回の映畫についても、第三十三回の映畫についても、第三十四回の映畫についても、第三十五回の映畫についても、第三十六回の映畫についても、第三十七回の映畫についても、第三十八回の映畫についても、第三十九回の映畫についても、第四十回の映畫についても、第四十一回の映畫についても、第四十二回の映畫についても、第四十三回の映畫についても、第四十四回の映畫についても、第四十五回の映畫についても、第四十六回の映畫についても、第四十七回の映畫についても、第四十八回の映畫についても、第四十九回の映畫についても、第五十回の映畫についても、第五十一回の映畫についても、第五十二回の映畫についても、第五十三回の映畫についても、第五十四回の映畫についても、第五十五回の映畫についても、第五十六回の映畫についても、第五十七回の映畫についても、第五十八回の映畫についても、第五十九回の映畫についても、第六十回の映畫についても、第六十一回の映畫についても、第六十二回の映畫についても、第六十三回の映畫についても、第六十四回の映畫についても、第六十五回の映畫についても、第六十六回の映畫についても、第六十七回の映畫についても、第六十八回の映畫についても、第六十九回の映畫についても、第七十回の映畫についても、第七十一回の映畫についても、第七十二回の映畫についても、第七十三回の映畫についても、第七十四回の映畫についても、第七十五回の映畫についても、第七十六回の映畫についても、第七十七回の映畫についても、第七十八回の映畫についても、第七十九回の映畫についても、第八十回の映畫についても、第八十一回の映畫についても、第八十二回の映畫についても、第八十三回の映畫についても、第八十四回の映畫についても、第八十五回の映畫についても、第八十六回の映畫についても、第八十七回の映畫についても、第八十八回の映畫についても、第八十九回の映畫についても、第九十回の映畫についても、第九十一回の映畫についても、第九十二回の映畫についても、第九十三回の映畫についても、第九十四回の映畫についても、第九十五回の映畫についても、第九十六回の映畫についても、第九十七回の映畫についても、第九十八回の映畫についても、第九十九回の映畫についても、第百回の映畫についても、第百一回の映畫についても、第百二回の映畫についても、第百三回の映畫についても、第百四回の映畫についても、第百五回の映畫についても、第百六回の映畫についても、第百七回の映畫についても、第百八回の映畫についても、第百九回の映畫についても、第百十回の映畫についても、第百十一回の映畫についても、第百十二回の映畫についても、第百十三回の映畫についても、第百十四回の映畫についても、第百十五回の映畫についても、第百十六回の映畫についても、第百十七回の映畫についても、第百十八回の映畫についても、第百十九回の映畫についても、第百二十回の映畫についても、第百二十一回の映畫についても、第百二十二回の映畫についても、第百二十三回の映畫についても、第百二十四回の映畫についても、第百二十五回の映畫についても、第百二十六回の映畫についても、第百二十七回の映畫についても、第百二十八回の映畫についても、第百二十九回の映畫についても、第百三十回の映畫についても、第百三十一回の映畫についても、第百三十二回の映畫についても、第百三十三回の映畫についても、第百三十四回の映畫についても、第百三十五回の映畫についても、第百三十六回の映畫についても、第百三十七回の映畫についても、第百三十八回の映畫についても、第百三十九回の映畫についても、第百四十回の映畫についても、第百四十一回の映畫についても、第百四十二回の映畫についても、第百四十三回の映畫についても、第百四十四回の映畫についても、第百四十五回の映畫についても、第百四十六回の映畫についても、第百四十七回の映畫についても、第百四十八回の映畫についても、第百四十九回の映畫についても、第百五十回の映畫についても、第百五十一回の映畫についても、第百五十二回の映畫についても、第百五十三回の映畫についても、第百五十四回の映畫についても、第百五十五回の映畫についても、第百五十六回の映畫についても、第百五十七回の映畫についても、第百五十八回の映畫についても、第百五十九回の映畫についても、第百六十回の映畫についても、第百六十一回の映畫についても、第百六十二回の映畫についても、第百六十三回の映畫についても、第百六十四回の映畫についても、第百六十五回の映畫についても、第百六十六回の映畫についても、第百六十七回の映畫についても、第百六十八回の映畫についても、第百六十九回の映畫についても、第百七十回の映畫についても、第百七十一回の映畫についても、第百七十二回の映畫についても、第百七十三回の映畫についても、第百七十四回の映畫についても、第百七十五回の映畫についても、第百七十六回の映畫についても、第百七十七回の映畫についても、第百七十八回の映畫についても、第百七十九回の映畫についても、第百八十回の映畫についても、第百八十一回の映畫についても、第百八十二回の映畫についても、第百八十三回の映畫についても、第百八十四回の映畫についても、第百八十五回の映畫についても、第百八十六回の映畫についても、第百八十七回の映畫についても、第百八十八回の映畫についても、第百八十九回の映畫についても、第百九十回の映畫についても、第百九十一回の映畫についても、第百九十二回の映畫についても、第百九十三回の映畫についても、第百九十四回の映畫についても、第百九十五回の映畫についても、第百九十六回の映畫についても、第百九十七回の映畫についても、第百九十八回の映畫についても、第百九十九回の映畫についても、第二百回の映畫についても、第二百一回の映畫についても、第二百二回の映畫についても、第二百三回の映畫についても、第二百四回の映畫についても、第二百五回の映畫についても、第二百六回の映畫についても、第二百七回の映畫についても、第二百八回の映畫についても、第二百九回の映畫についても、第二百十回の映畫についても、第二百十一回の映畫についても、第二百十二回の映畫についても、第二百十三回の映畫についても、第二百十四回の映畫についても、第二百十五回の映畫についても、第二百十六回の映畫についても、第二百十七回の映畫についても、第二百十八回の映畫についても、第二百十九回の映畫についても、第二百二十回の映畫についても、第二百二十一回の映畫についても、第二百二十二回の映畫についても、第二百二十三回の映畫についても、第二百二十四回の映畫についても、第二百二十五回の映畫についても、第二百二十六回の映畫についても、第二百二十七回の映畫についても、第二百二十八回の映畫についても、第二百二十九回の映畫についても、第二百三十回の映畫についても、第二百三十一回の映畫についても、第二百三十二回の映畫についても、第二百三十三回の映畫についても、第二百三十四回の映畫についても、第二百三十五回の映畫についても、第二百三十六回の映畫についても、第二百三十七回の映畫についても、第二百三十八回の映畫についても、第二百三十九回の映畫についても、第二百四十回の映畫についても、第二百四十一回の映畫についても、第二百四十二回の映畫についても、第二百四十三回の映畫についても、第二百四十四回の映畫についても、第二百四十五回の映畫についても、第二百四十六回の映畫についても、第二百四十七回の映畫についても、第二百四十八回の映畫についても、第二百四十九回の映畫についても、第二百五十回の映畫についても、第二百五十一回の映畫についても、第二百五十二回の映畫についても、第二百五十三回の映畫についても、第二百五十四回の映畫についても、第二百五十五回の映畫についても、第二百五十六回の映畫についても、第二百五十七回の映畫についても、第二百五十八回の映畫についても、第二百五十九回の映畫についても、第二百六十回の映畫についても、第二百六十一回の映畫についても、第二百六十二回の映畫についても、第二百六十三回の映畫についても、第二百六十四回の映畫についても、第二百六十五回の映畫についても、第二百六十六回の映畫についても、第二百六十七回の映畫についても、第二百六十八回の映畫についても、第二百六十九回の映畫についても、第二百七十回の映畫についても、第二百七十一回の映畫についても、第二百七十二回の映畫についても、第二百七十三回の映畫についても、第二百七十四回の映畫についても、第二百七十五回の映畫についても、第二百七十六回の映畫についても、第二百七十七回の映畫についても、第二百七十八回の映畫についても、第二百七十九回の映畫についても、第二百八十回の映畫についても、第二百八十一回の映畫についても、第二百八十二回の映畫についても、第二百八十三回の映畫についても、第二百八十四回の映畫についても、第二百八十五回の映畫についても、第二百八十六回の映畫についても、第二百八十七回の映畫についても、第二百八十八回の映畫についても、第二百八十九回の映畫についても、第二百九十回の映畫についても、第二百九十一回の映畫についても、第二百九十二回の映畫についても、第二百九十三回の映畫についても、第二百九十四回の映畫についても、第二百九十五回の映畫についても、第二百九十六回の映畫についても、第二百九十七回の映畫についても、第二百九十八回の映畫についても、第二百九十九回の映畫についても、第三百回の映畫についても、第三百一回の映畫についても、第三百二回の映畫についても、第三百三回の映畫についても、第三百四回の映畫についても、第三百五回の映畫についても、第三百六回の映畫についても、第三百七回の映畫についても、第三百八回の映畫についても、第三百九回の映畫についても、第三百十回の映畫についても、第三百十一回の映畫についても、第三百十二回の映畫についても、第三百十三回の映畫についても、第三百十四回の映畫についても、第三百十五回の映畫についても、第三百十六回の映畫についても、第三百十七回の映畫についても、第三百十八回の映畫についても、第三百十九回の映畫についても、第三百二十回の映畫についても、第三百二十一回の映畫についても、第三百二十二回の映畫についても、第三百二十三回の映畫についても、第三百二十四回の映畫についても、第三百二十五回の映畫についても、第三百二十六回の映畫についても、第三百二十七回の映畫についても、第三百二十八回の映畫についても、第三百二十九回の映畫についても、第三百三十回の映畫についても、第三百三十一回の映畫についても、第三百三十二回の映畫についても、第三百三十三回の映畫についても、第三百三十四回の映畫についても、第三百三十五回の映畫についても、第三百三十六回の映畫についても、第三百三十七回の映畫についても、第三百三十八回の映畫についても、第三百三十九回の映畫についても、第三百四十回の映畫についても、第三百四十一回の映畫についても、第三百四十二回の映畫についても、第三百四十三回の映畫についても、第三百四十四回の映畫についても、第三百四十五回の映畫についても、第三百四十六回の映畫についても、第三百四十七回の映畫についても、第三百四十八回の映畫についても、第三百四十九回の映畫についても、第三百五十回の映畫についても、第三百五十一回の映畫についても、第三百五十二回の映畫についても、第三百五十三回の映畫についても、第三百五十四回の映畫についても、第三百五十五回の映畫についても、第三百五十六回の映畫についても、第三百五十七回の映畫についても、第三百五十八回の映畫についても、第三百五十九回の映畫についても、第三百六十回の映畫についても、第三百六十一回の映畫についても、第三百六十二回の映畫についても、第三百六十三回の映畫についても、第三百六十四回の映畫についても、第三百六十五回の映畫についても、第三百六十六回の映畫についても、第三百六十七回の映畫についても、第三百六十八回の映畫についても、第三百六十九回の映畫についても、第三百七十回の映畫についても、第三百七十一回の映畫についても、第三百七十二回の映畫についても、第三百七十三回の映畫についても、第三百七十四回の映畫についても、第三百七十五回の映畫についても、第三百七十六回の映畫についても、第三百七十七回の映畫についても、第三百七十八回の映畫についても、第三百七十九回の映畫についても、第三百八十回の映畫についても、第三百八十一回の映畫についても、第三百八十二回の映畫についても、第三百八十三回の映畫についても、第三百八十四回の映畫についても、第三百八十五回の映畫についても、第三百八十六回の映畫についても、第三百八十七回の映畫についても、第三百八十八回の映畫についても、第三百八十九回の映畫についても、第三百九十回の映畫についても、第三百九十一回の映畫についても、第三百九十二回の映畫についても、第三百九十三回の映畫についても、第三百九十四回の映畫についても、第三百九十五回の映畫についても、第三百九十六回の映畫についても、第三百九十七回の映畫についても、第三百九十八回の映畫についても、第三百九十九回の映畫についても、第四百回の映畫についても、第四百一回の映畫についても、第四百二回の映畫についても、第四百三回の映畫についても、第四百四回の映畫についても、第四百五回の映畫についても、第四百六回の映畫についても、第四百七回の映畫についても、第四百八回の映畫についても、第四百九回の映畫についても、第四百十回の映畫についても、第四百十一回の映畫についても、第四百十二回の映畫についても、第四百十三回の映畫についても、第四百十四回の映畫についても、第四百十五回の映畫についても、第四百十六回の映畫についても、第四百十七回の映畫についても、第四百十八回の映畫についても、第四百十九回の映畫についても、第四百二十回の映畫についても、第四百二十一回の映畫についても、第四百二十二回の映畫についても、第四百二十三回の映畫についても、第四百二十四回の映畫についても、第四百二十五回の映畫についても、第四百二十六回の映畫についても、第四百二十七回の映畫についても、第四百二十八回の映畫についても、第四百二十九回の映畫についても、第四百三十回の映畫についても、第四百三十一回の映畫についても、第四百三十二回の映畫についても、第四百三十三回の映畫についても、第四百三十四回の映畫についても、第四百三十五回の映畫についても、第四百三十六回の映畫についても、第四百三十七回の映畫についても、第四百三十八回の映畫についても、第四百三十九回の映畫についても、第四百四十回の映畫についても、第四百四十一回の映畫についても、第四百四十二回の映畫についても、第四百四十三回の映畫についても、第四百四十四回の映畫についても、第四百四十五回の映畫についても、第四百四十六回の映畫についても、第四百四十七回の映畫についても、第四百四十八回の映畫についても、第四百四十九回の映畫についても、第四百五十回の映畫についても、第四百五十一回の映畫についても、第四百五十二回の映畫についても、第四百五十三回の映畫についても、第四百五十四回の映畫についても、第四百五十五回の映畫についても、第四百五十六回の映畫についても、第四百五十七回の映畫についても、第四百五十八回の映畫についても、第四百五十九回の映畫についても、第四百六十回の映畫についても、第四百六十一回の映畫についても、第四百六十二回の映畫についても、第四百六十三回の映畫についても、第四百六十四回の映畫についても、第四百六十五回の映畫についても、第四百六十六回の映畫についても、第四百六十七回の映畫についても、第四百六十八回の映畫についても、第四百六十九回の映畫についても、第四百七十回の映畫についても、第四百七十一回の映畫についても、第四百七十二回の映畫についても、第四百七十三回の映畫についても、第四百七十四回の映畫についても、第四百七十五回の映畫についても、第四百七十六回の映畫についても、第四百七十七回の映畫についても、第四百七十八回の映畫についても、第四百七十九回の映畫についても、第四百八十回の映畫についても、第四百八十一回の映畫についても、第四百八十二回の映畫についても、第四百八十三回の映畫についても、第四百八十四回の映畫についても、第四百八十五回の映畫についても、第四百八十六回の映畫についても、第四百八十七回の映畫についても、第四百八十八回の映畫についても、第四百八十九回の映畫についても、第四百九十回の映畫についても、第四百九十一回の映畫についても、第四百九十二回の映畫についても、第四百九十三回の映畫についても、第四百九十四回の映畫についても、第四百九十五回の映畫についても、第四百九十六回の映畫についても、第四百九十七回の映畫についても、第四百九十八回の映畫についても、第四百九十九回の映畫についても、第五百回の映畫についても、第五百一回の映畫についても、第五百二回の映畫についても、第五百三回の映畫についても、第五百四回の映畫についても、第五百五回の映畫についても、第五百六回の映畫についても、第五百七回の映畫についても、第五百八回の映畫についても、第五百九回の映畫についても、第五百十回の映畫についても、第五百十一回の映畫についても、第五百十二回の映畫についても、第五百十三回の映畫についても、第五百十四回の映畫についても、第五百十五回の映畫についても、第五百十六回の映畫についても、第五百十七回の映畫についても、第五百十八回の映畫についても、第五百十九回の映畫についても、第五百二十回の映畫についても、第五百二十一回の映畫についても、第五百二十二回の映畫についても、第五百二十三回の映畫についても、第五百二十四回の映畫についても、第五百二十五回の映畫についても、第五百二十六回の映畫についても、第五百二十七回の映畫についても、第五百二十八回の映畫についても、第五百二十九回の映畫についても、第五百三十回の映畫についても、第五百三十一回の映畫についても、第五百三十二回の映畫についても、第五百三十三回の映畫についても、第五百三十四回の映畫についても、第五百三十五回の映畫についても、第五百三十六回の映畫についても、第五百三十七回の映畫についても、第五百三十八回の映畫についても、第五百三十九回の映畫についても、第五百四十回の映畫についても、第五百四十一回の映畫についても、第五百四十二回の映畫についても、第五百四十三回の映畫についても、第五百四十四回の映畫についても、第五百四十五回の映畫についても、第五百四十六回の映畫についても、第五百四十七回の映畫についても、第五百四十八回の映畫についても、第五百四十九回の映畫についても、第五百五十回の映畫についても、第五百五十一回の映畫についても、第五百五十二回の映畫についても、第五百五十三回の映畫についても、第五百五十四回の映畫についても、第五百五十五回の映畫についても、第五百五十六回の映畫についても、第五百五十七回の映畫についても、第五百五十八回の映畫についても、第五百五十九回の映畫についても、第五百六十回の映畫についても、第五百六十一回の映畫についても、第五百六十二回の映畫についても、第五百六十三回の映畫についても、第五百六十四回の映畫についても、第五百六十五回の映畫についても、第五百六十六回の映畫についても、第五百六十七回の映畫についても、第五百六十八回の映畫についても、第五百六十九回の映畫についても、第五百七十回の映畫についても、第五百七十一回の映畫についても、第五百七十二回の映畫についても、第五百七十三回の映畫についても、第五百七十四回の映畫についても、第五百七十五回の映畫についても、第五百七十六回の映畫についても、第五百七十七回の映畫についても、第五百七十八回の映畫についても、第五百七十九回の映畫についても、第五百八十回の映畫についても、第五百八十一回の映畫についても、第五百八十二回の映畫についても、第五百八十三回の映畫についても、第五百八十四回の映畫についても、第五百八十五回の映畫についても、第五百八十六回の映畫についても、第五百八十七回の映畫についても、第五百八十八回の映畫についても、第五百八十九回の映畫についても、第五百九十回の映畫についても、第五百九十一回の映畫についても、第五百九十二回の映畫についても、第五百九十三回の映畫についても、第五百九十四回の映畫についても、第五百九十五回の映畫についても、第五百九十六回の映畫についても、第五百九十七回の映畫についても、第五百九十八回の映畫についても、第五百九十九回の映畫についても、第六百回の映畫についても、第六百一回の映畫についても、第六百二回の映畫についても、第六百三回の映畫についても、第六百四回の映畫についても、第六百五回の映畫についても、第六百六回の映畫についても、第六百七回の映畫についても、第六百八回の映畫についても、第六百九回の映畫についても、第六百十回の映畫についても、第六百十一回の映畫についても、第六百十二回の映畫についても、第六百十三回の映畫についても、第六百十四回の映畫についても、第六百十五回の映畫についても、第六百十六回の映畫についても、第六百十七回の映畫についても、第六百十八回の映畫についても、第六百十九回の映畫についても、第六百二十回の映畫についても、第六百二十一回の映畫についても、第六百二十二回の映畫についても、第六百二十三回の映畫についても、第六百二十四回の映畫についても、第六百二十五回の映畫についても、第六百二十六回の映畫についても、第六百二十七回の映畫についても、第六百二十八回の映畫についても、第六百二十九回の映畫についても、第六百三十回の映畫についても、第六百三十一回の映畫についても、第六百三十二回の映畫についても、第六百三十三回の映畫についても、第六百三十四回の映畫についても、第六百三十五回の映畫についても、第六百三十六回の映畫についても、第六百三十七回の映畫についても、第六百三十八回の映畫についても、第六百三十九回の映畫についても、第六百四十回の映畫についても、第六百四十一回の映畫についても、第六百四十二回の映畫についても、第六百四十三回の映畫についても、第六百四十四回の映畫についても、第六百四十五回の映畫についても、第六百四十六回の映畫についても、第六百四十七回の映畫についても、第六百四十八回の映畫についても、第六百四十九回の映畫についても、第六百五十回の映畫についても、第六百五十一回の映畫についても、第六百五十二回の映畫についても、第六百五十三回の映畫についても、第六百五十四回の映畫についても、第六百五十五回の映畫についても、第六百五十六回の映畫についても、第六百五十七回の映畫についても、第六百五十八回の映畫についても、第六百五十九回の映畫についても、第六百六十回の映畫についても、第六百六十一回の映畫についても、第六百六十二回の映畫についても、第六百六十三回の映畫についても、第六百六十四回の映畫についても、第六百六十五回の映畫についても、第六百六十六回の映畫についても、第六百六十七回の映畫についても、第六百六十八回の映畫についても、第六百六十九回の映畫についても、第六百七十回の映畫についても、第六百七十一回の映畫についても、第六百七十二回の映畫についても、第六百七十三回の映畫についても、第六百七十四回の映畫についても、第六百七十五回の映畫についても、第六百七十六回の映畫についても、第六百七十七回の映畫についても、第六百七十八回の映畫についても、第六百七十九回の映畫についても、第六百八十回の映畫についても、第六百八十一回の映畫についても、第六百八十二回の映畫についても、第六百八十三回の映畫についても、第六百八十四回の映畫についても、第六百八十五回の映畫についても、第六百八十六回の映畫についても、第六百八十七回の映畫についても、第六百八十八回の映畫についても、第六百八十九回の映畫についても、第六百九十回の映畫についても、第六百九十一回の映畫についても、第六百九十二回の映畫についても、第六百九十三回の映畫についても、第六百九十四回の映畫についても、第六百九十五回の映畫についても、第六百九十六回の映畫についても、第六百九十七回の映畫についても、第六百九十八回の映畫についても、第六百九十九回の映畫についても、第七百回の映畫についても、第七百一回の映畫についても、第七百二回の映畫についても、第七百三回の映畫についても、第七百四回の映畫についても、第七百五回の映畫についても、第七百六回の映畫についても、第七百七回の映畫についても、第七百八回の映畫についても、第七百九回の映畫についても、第七百十回の映畫についても、第七百十一回の映畫についても、第七百十二回の映畫についても、第七百十三回の映畫についても、第七百十四回の映畫についても、第七百十五回の映畫についても、第七百十六回の映畫についても、第七百十七回の映畫についても、第七百十八回の映畫についても、第七百十九回の映畫についても、第七百二十回の映畫についても、第七百二十一回の映畫についても、第七百二十二回の映畫についても、第七百二十三回の映畫についても、第七百二十四回の映畫についても、第七百二十五回の映畫についても、第七百二十六回の映畫についても、第七百二十七回の映畫についても、第七百二十八回の映畫についても、第七百二十九回の映畫についても、第七百三十回の映畫についても、第七百三十一回の映畫についても、第七百三十二回の映畫についても、第七百三十三回の映畫についても、第七百三十四回の映畫についても、第七百三十五回の映畫についても、第七百三十六回の映畫についても、第七百三十七回の映畫についても、第七百三十八回の映畫についても、第七百三十九回の映畫についても、第七百四十回の映畫についても、第七百四十一回の映畫についても、第七百四十二回の映畫についても、第七百四十三回の映畫についても、第七百四十四回の映畫についても、第七百四十五回の映畫についても、第七百四十六回の映畫についても、第七百四十七回の映畫についても、第七百四十八回の映畫についても、第七百四十九回の映畫についても、第七百五十回の映畫についても、第七百五十一回の映畫についても、第七百五十二回の映畫についても、第七百五十三回の映畫についても、第七百五十四回の映畫についても、第七百五十五回の映畫についても、第七百五十六回の映畫についても、第七百五十七回の映畫についても、第七百五十八回の映畫についても、第七百五十九回の映畫についても、第七百六十回の映畫についても、第七百六十一回の映畫についても、第七百六十二回の映畫についても、第七百六十三回の映畫についても、第七百六十四回の映畫についても、第七百六十五回の映畫についても、第七百六十六回の映畫についても、第七百六十七回の映畫についても、第七百六十八回の映畫についても、第七百六十九回の映畫についても、第七百七十回の映畫についても、第七百七十一回の映畫についても、第七百七十二回の映畫についても、第七百七十三回の映畫についても、第七百七十四回の映畫についても、第七百七十五回の映畫についても、第七百七十六回の映畫についても、第七百七十七回の映畫についても、第七百七十八回の映畫についても、第七百七十九回の映畫についても、第七百八十回の映畫についても、第七百八十一回の映畫についても、第七百八十二回の映畫についても、第七百八十三回の映畫についても、第七百八十四回の映畫についても、第七百八十五回の映畫についても、第七百八十六回の映畫についても、第七百八十七回の映畫についても、第七百八十八回の映畫についても、第七百八十九回の映畫についても、第七百九十回の映畫についても、第七百九十一回の映畫についても、第七百九十二回の映畫についても、第七百九十三回の映畫についても、第七百九十四回の映畫についても、第七百九十五回の映畫についても、第七百九十六回の映畫についても、第七百九十七回の映畫についても、第七百九十八回の映畫についても、第七百九十九回の映畫についても、第八百回の映畫についても、第八百一回の映畫についても、第八百二回の映畫についても、第八百三回の映畫についても、第八百四回の映畫についても、第八百五回の映畫についても、第八百六回の映畫についても、第八百七回の映畫についても、第八百八回の映畫についても、第八百九回の映畫についても、第八百十回の映畫についても、第八百十一回の映畫についても、第八百十二回の映畫についても、第八百十三回の映畫についても、第八百十四回の映畫についても、第八百十五回の映畫についても、第八百十六回の映畫についても、第八百十七回の映畫についても、第八百十八回の映畫についても、第八百十九回の映畫についても、第八百二十回の映畫についても、第八百二十一回の映畫についても、第八百二十二回の映畫についても、第八百二十三回の映畫についても、第八百二十四回の映畫についても、第八百二十五回の映畫についても、第八百二十六回の映畫についても、第八百二十七回の映畫についても、第八百二十八回の映畫についても、第八百二十九回の映畫についても、第八百三十回の映畫についても、第八百三十一回の映畫についても、第八百三十二回の映畫についても、第八百三十三回の映畫についても、第八百三十四回の映畫についても、第八百三十五回の映畫についても、第八百三十六回の映畫についても、第八百三十七回の映畫についても、第八百三十八回の映畫についても、第八百三十九回の映畫についても、第八百四十回の映畫についても、第八百四十一回の映畫についても、第八百四十二回の映畫についても、第八百四十三回の映畫についても、第八百四十四回の映畫についても、第八百四十五回の映畫についても、第八百四十六回の映畫についても、第八百四十七回の映畫についても、第八百四十八回の映畫についても、第八百四十九回の映畫についても、第八百五十回の映畫についても、第八百五十一回の映畫についても、第八百五十二回の映畫についても、第八百五十三回の映畫についても、第八百五十四回の映畫についても、第八百五十五回の映畫についても、第八百五十六回の映畫についても、第八百五十七回の映畫についても、第八百五十八回の映畫についても、第八百五十九回の映畫についても、第八百六十回の映畫についても、第八百六十一回の映畫についても、第八百六十二回の映畫についても、第八百六十三回の映畫についても、第八百六十四回の映畫についても、第八百六十五回の映畫についても、第八百六十六回の映畫についても、第八百六十七回の映畫についても、第八百六十八回の映畫についても、第八百六十九回の映畫についても、第八百七十回の映畫についても、第八百七十一回の映畫についても、第八百七十二回の映畫についても、第八百七十三回の映畫についても、第八百七十四回の映畫についても、第八百七十五回の映畫についても、第八百七十六回の映畫についても、第八百七十七回の映畫についても、第八百七十八回の映畫についても、第八百七十九回の映畫についても、第八百八十回の映畫についても、第八百八十一回の映畫についても、第八百八十二回の映畫についても、第八百八十三回の映畫についても、第八百八十四回の映畫についても、第八百八十五回の映畫についても、第八百八十六回の映畫についても、第八百八十七回の映畫についても、第八百八十八回の映畫についても、第八百八十九回の映畫についても、第八百九十回の映畫についても、第八百九十一回の映畫についても、第八百九十二回の映畫についても、第八百九十三回の映畫についても、第八百九十四回の映畫についても、第八百九十五回の映畫についても、第八百九十六回の映畫についても、第八百九十七回の映畫についても、第八百九十八回の映畫についても、第八百九十九回の映畫についても、第九百回の映畫についても、第九百一回の映畫についても、第九百二回の映畫についても、第九百三回の映畫についても、第九百四回の映畫についても、第九百五回の映畫についても、第九百六回の映畫についても、第九百七回の映畫についても、第九百八回の映畫についても、第九百九回の映畫についても、第九百十回の映畫についても、第九百十一回の映畫についても、第九百十二回の映畫についても、第九百十三回の映畫についても、第九百十四回の映畫についても、第九百十五回の映畫についても、第九百十六回の映畫についても、第九百十七回の映畫についても、第九百十八回の映畫についても、第九百十九回の映畫についても、第九百二十回の映畫についても、第九百二十一回の映畫についても、第九百二十二回の映畫についても、第九百二十三回の映畫についても、第九百二十四回の映畫についても、第九百二十五回の映畫についても、第九百二十六回の映畫についても、第九百二十七回の映畫についても、第九百二十八回の映畫についても、第九百二十九回の映畫についても、第九百三十回の映畫についても、第九百三十一回の映畫についても、第九百三十二回の映畫についても、第九百三十三回の映畫についても、第九百三十四回の映畫についても、第九百三十五回の映畫についても、第九百三十六回の映畫についても、第九百三十七回の映畫についても、第九百三十八回の映畫についても、第九百三十九回の映畫についても、第九百四十回の映畫についても、第九百四十一回の映畫についても、第九百四十二回の映畫についても、第九百四十三回の映畫についても、第九百四十四回の映畫についても、第九百四十五回の映畫についても、第九百四十六回の映畫についても、第九百四十七回の映畫についても、第九百四十八回の映畫についても、第九百四十九回の映畫についても、第九百五十回の映畫についても、第九百五十一回の映畫についても、第九百五十二回の映畫についても、第九百五十三回の映畫についても、第九百五十四回の映畫についても、第九百五十五回の映畫についても、第九百五十六回の映畫についても、第九百五十七回の映畫についても、第九百五十八回の映畫についても、第九百五十九回の映畫についても、第九百六十回の映畫についても、第九百六十一回の映畫についても、第九百六十二回の映畫についても、第九百六十三回の映畫についても、第九百六十四回の映畫についても、第九百六十五回の映畫についても、第九百六十六回の映畫についても、第九百六十七回の映畫についても、第九百六十八回の映畫についても、第九百六十九回の映畫についても、第九百七十回の映畫についても、第九百七十一回の映畫についても、第九百七十二回の映畫についても、第九百七十三回の映畫についても、第九百七十四回の映畫についても、第九百七十五回の映畫についても、第九百七十六回の映畫についても、第九百七十七回の映畫についても、第九百七十八回の映畫についても、第九百七十九回の映畫についても、第九百八十回の映畫についても、第九百八十一回の映畫についても、第九百八十二回の映畫についても、第九百八十三回の映畫についても、第九百八十四回の映畫についても、第九百八十五回の映畫についても、第九百八十六回の映畫についても、第九百八十七回の映畫についても、第九百八十八回の映畫についても、第九百八十九回の映畫についても、第九百九十回の映畫についても、第九百九十一回の映畫についても、第九百九十二回の映畫についても、第九百九十三回の映畫についても、第九百九十四回の映畫についても、第九百九十五回の映畫についても、第九百九十六回の映畫についても、第九百九十七回の映畫についても、第九百九十八回の映畫についても、第九百九十九回の映畫についても、第千回の映畫についても、第千一回の映畫についても、第千二回の映畫についても、第千三回の映畫についても、第千四回の映畫についても、第千五回の映畫についても、第千六回の映畫についても、第千七回の映畫についても、第千八回の映畫についても、第千九回の映畫についても、第千十回の映畫についても、第千十一回の映畫についても、第千十二回の映畫についても、第千十三回の映畫についても、第千十四回の映畫についても、第千十五回の映畫についても、第千十六回の映畫についても、第千十七回の映畫についても、第千十八回の映畫についても、第千十九回の映畫についても、第千二十回の映畫についても、第千二十一回の映畫についても、第千二十二回の映畫についても、第千二十三回の映畫についても、第千二十四回の映畫についても、第千二十五回の映畫についても、第千二十六回の映畫についても、第千二十七回の映畫についても、第千二十八回の映畫についても、第千二十九回の映畫についても、第千三十回の映畫についても、第千三十一回の映畫についても、第千三十二回の映畫についても、第千三十三回の映畫についても、第千三十四回の映畫についても、第千三十五回の映畫についても、第千三十六回の映畫についても、第千三十七回の映畫についても、第千三十八回の映畫についても、第千三十九回の映畫についても、第千四十回の映畫についても、第千四十一回の映畫についても、第千四十二回の映畫についても、第千四十三回の映畫についても、第千四十四回の映畫についても、第千四十五回の映畫についても、第千四十六回の映畫についても、第千四十七回の映

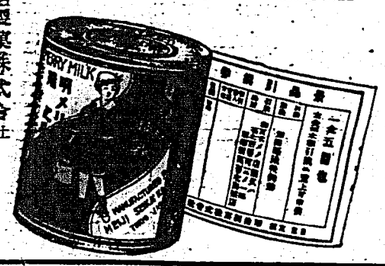
臺灣日日新報
本日夕刊共十二頁
臺北市表町二丁目一番地 臺灣日日新報社 所行發 電話代表八〇五一番 振替口座臺北二〇番 定價一部六錢・一ヶ月前金壹圓五拾錢 廣告料特別一行十五字 壹回十錢 貳回十五錢 參回二十錢 本紙は日本國内及支那各地へ郵便にて一ヶ月金壹圓五拾錢也（日本國内・昭和四年同令八月一日改正）

クルミーリン説明
（乳煉標兒女）
ノる當が品景大でルテツレ

換可時即舖店在、額全載記所裸内
幸是上買新務、佳且富豐容内品景

載記に裏ルテッレ張罐
舖店のめ求買おを額金の
ノすまし致へ換引おてに
他其　錢十五・圓壹・圓五　額金載記

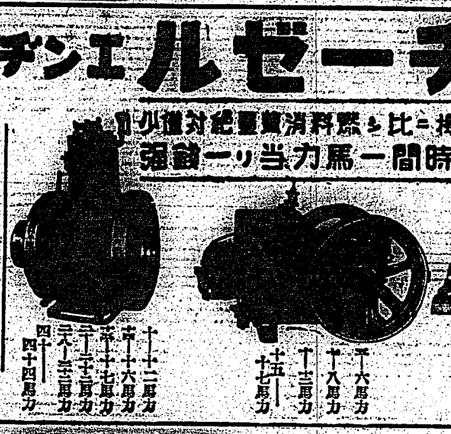




母乳代用内外第一・品質優良價格低廉
明治製菓株式會社

●惡酔はしないつまらぬ酒をもうやめましょう
ノーシン
ンの御用意さへあれば！●

スキエツルマ



ンヂンエルゼーデーマンヤ
絶對安全
內燃機用・推進
他に比ら煤料消量實絶對少量
一時間一馬力當リ一錢強

大量製産・在庫豊富

息もつかせぬ
ウマサ也
涼味なり

ルービスビヤ

君！
夏は
これでなけりア

大日本麥酒株式會社

◇醫學士より册子無代送呈「若返り長壽法」

若芥乃若永止

この老齡
この黑髮

ヨウモトニックが？の鍵

まったくヨウモト黨がお齡に似合はぬ若々しい頭髮を保たれるのは正しい養毛料の醫療的効果が、毛根の機能を旺盛にして、脫毛を防ぎ且新毛の發生を促進するからです。

それに今一つ！
不快なムズ痒さや、雲脂が一掃され、滴る様な魅力的芳香が、終日放散して生々とした生活が出來ますから、一層ハッラッと、青春が甦へるからです。

◇指劑刀の鋭い發賣所に其劑家唯もロウモ ニックだけは揃んで劑備御置下さいませ

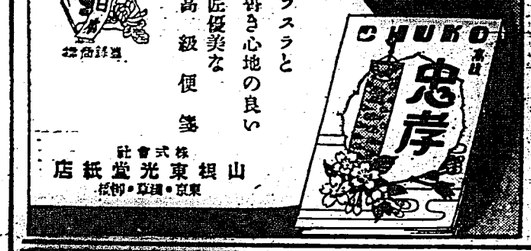
改正定價
小一四三十錢・大二四十五錢
德用五四五〇錢・外にデパート專用劑あり。

若禿を防止する・生物學的養毛料
のヨウモトニック
（登録商標）

SANKYO 三共

東京・室町 三共ビル
製造元（三共株式會社）泰昌製藥株式會社

孝忠
高級便箋
菊日章



スラスラと
書き心地の良い
意匠優美な
高級便箋

株式會社 山根東光堂紙店
東京・京橋・銀座

本月抽籤當籤番號表

太字ハ同別＝付テハ下記各支拂場所デ當籤番號ノ下ヘ＊印ヲ附ス

支拂開始 昭和十二年十月一日
支拂場所 各郵便局代理店並ニ
支店 日本勸業銀行 北出張所

割引5				貯蓄奬勵4			
參千圓	62718	71362	89582	參千圓	65079	73642	90637
五百圓	69998	78508	97321	五百圓	7563	79379	31333
	71875	79354		壹百圓	34007	83884	32107
壹千圓	73238	87524	復興4		34566	97847	
五百圓	80490	87904			36372		24
壹百圓	83782	88943			38793		
	87103	96055			60529		25
	88228		17		64640		
	91401			參千圓	70571		
	93654			五百圓	74555		伍百圓
	94746			壹百圓	81756		6553
	97188				84940		26096
			16		98607		39656
參千圓	283						54883
五百圓	21974			部貴選			83527
壹百圓	34008			繰上金			384
			15		69		1105
參千圓	1587						7515
五百圓	12046			參千圓	2313	70861	10397
壹百圓	32087			五百圓	32342	72573	11948
	87683			壹百圓	72778	72921	12351
	8618				73245	79180	41959
	22934				77209	79909	57914
	10377					81665	59025
	16542				2237	86541	
	17641				2472	87213	
	19368				3983	88741	
	19966				4126	96263	
	20595				6424	97983	
	22105				7022	99908	
	22691				10250		
	24578				11138		
	29627				19473		
	32033				26199		
	34386				28653		
	34497				34447		
	34604				39737		
	37161				45939		
	39408				52350		
					61380		
					69937		
				貳千圓	70367		

勤業債券7			
壹千圓	32227		
五百圓	49941		
壹百圓	3379		
	22952		
	24112		
	39042		
	48999		
	23		
伍百圓	1976		
	3877		
	18817		
壹百圓	384		
	3409		
	4083		
	16695		
	23586		
	31783		
	41959		
	57293		
	22		
壹千圓	44915		

債券ノ賣買ハ當社ニ御命ジ下サイ

債券前拂證書・賣拂ノ公債ハ十一月一日ヨリ十二月末日迄ノ間ニ當社ニ於テ御渡シ致シマス

臺灣日日新報社編輯局編纂

改正臺北市全圖

市區改正後ノ最新ノ地圖ニ依リ各町名ヲ明記シ且ツ官廳會社學校銀行其他ノ主要ナル建物ヲ網羅シ尚ホ市内ノ交通ニ便ナル爲メ電車ノ線路ヲ朱線ヲ以テ表示シ又市内ノ名所舊蹟ヲ一目瞭然タラシメンガ爲メ之ヲ圖中ニ記入シ尚ホ市内ノ主要ナル道路ニハ番地ヲ附シ以テ目的地ヲ探スニ便ナラシメタリ

發行所 臺灣日日新報社商業課

賣捌入札
一、汽船外二隻
但細目ハ九月十日臺灣日日新報ニアリ
昭和十二年九月十一日
馬公要港部

母伊藤ユキ儀業務自宅調養中ノ處十日午前三時三十分八十三歳ノ高齢ヲ以テ永眠仕候間此段謹告仕候也
追而葬儀ハ十二日午後一時ヨリ午後四時マデニ自宅ニ於テ執行仕候
昭和十二年九月十日
女 伊藤ユク
親族一同

總動員を遂行

中央機關を設けて

きのふ閣議で決定

【東京十日發同盟】十日の定例閣議は午前十時半より首相官邸に開會、近衛首相以下全閣僚出席、先づ國民精神動員計畫の遂行に就て協議を行つた結果總動員の徹底を期するため官設團體を避け官民共同の強力な中央機關を設置することに方針を決定し更に十一日の演說會の打合せをなし、次で廣田外相、杉山陸相から國際情勢及び戰況等につき詳細なる報告があつた後、現在の各種調査會の取扱に關し意見交換を行つたが經費節約の建前から事變に直接關係あるものを中心に調査を進めることに決定し正午散會

北支方面は軍略上

今後戰況更に發展

閣議散會後 杉山陸相語る

【東京十日發同盟】杉山陸相は十日の閣議散會後左の如く語つた

問 戰時に相應した國防の强化竝に國民精神總動員實施に關し閣議に於ては如何なる方針を決定したか

答 今回の閣議に於ては內閣の强化竝に國民精神總動員實施に關し根本的方針を決定したのであるが、今回の閣議は實に大なる時局に當り特に國防を固めねばならぬ重大なるものであつて國民は擧國一致を以て國策に協力を要望したのである

問 時局に對處して擧國民として覺悟すべき點に關し一言されたい

答 擧國一致の點に關しては既に屢々述べた通りであるが、今回の事變は實に大なる時局であり從つて帝國は一度び起つて國運の伸張を圖らねばならぬのであり從つて國民は擧國一致以て國策に協力を要望したのである

問 戰時に於ける國民の覺悟は如何

答 戰時に於ける國民の覺悟は平時と全く異つたものでなければならぬ。即ち國家に於ける一切の人的物的資源は擧げて國家の爲に捧げ盡すの覺悟がなければならぬ。從つて國民は擧國一致國家の爲に獻身的努力を拂ふの覺悟がなければならぬ

問 戰時に於ける國民の生活は如何

答 戰時に於ける國民の生活は平時と全く異つたものでなければならぬ。從つて國民は擧國一致國家の爲に獻身的努力を拂ふの覺悟がなければならぬ。從つて國民は擧國一致國家の爲に獻身的努力を拂ふの覺悟がなければならぬ。從つて國民は擧國一致國家の爲に獻身的努力を拂ふの覺悟がなければならぬ

問 戰時に於ける國民の覺悟は如何

答 戰時に於ける國民の覺悟は平時と全く異つたものでなければならぬ。從つて國民は擧國一致國家の爲に獻身的努力を拂ふの覺悟がなければならぬ。從つて國民は擧國一致國家の爲に獻身的努力を拂ふの覺悟がなければならぬ。從つて國民は擧國一致國家の爲に獻身的努力を拂ふの覺悟がなければならぬ

問 戰時に於ける國民の生活は如何

答 戰時に於ける國民の生活

（五）

◇河村本部長　官舎の建築に就きお願ひします

◇遠永氏　總督部の遠永であります、今日の座談會に出席せよとの御話内々ありまして私一人出て參りましたが、總督に從屬します十數箇の勞力の問題は極めて多岐複雜に亘つて居りまして或は自由勞働者と多數に關係しなければならぬ問題に關しましては、總督府の各部局に關係する問題でありますとか、總督の諮問機關たる評議員と一口に申しましても種々雜多の特殊の問題を含つて居りまして、從來總督府の勞力として取扱はなければならぬ關係にありまして、之等の問題は私に大體關係外であります、今日從來では總督府の關係として居ります仕事の内容の一部、又は今日迄では殆んどの問題關係外にして居ります仕事の内の二部、鐵道工場としてのお話がありましたが、鐵道工場と云ひますと所謂鐵道總局の管轄に屬する工場の勞務關係だけに限つてお話させて頂きます、鐵道工場と云ひますと所謂鐵道總局の管轄に屬する工場の勞務關係の問題の如きは今日では原則的に若しくは定期的に定つて居ると申しても過言でなく、從つて鐵道工場では此等の原則を綜合して處置して行けばよいのであります、我日本の鐵道工場は既に御承知の通り世界の鐵道工場の中でも二番目として居ります、勞務關係なんかに關しまする問題でも種々研究されまして欧米を後に於ても鐵道總局の管轄に屬する工場の勞務關係の問題の如きは今日では原則的に定つて居るものと